

< 第 1 0 回政策討論会資料 >

限界集落問題に立ち向かう 坂内再生委員会の取組

平成 2 0 年 2 月 2 6 日 (火)

岐阜県の将来構想研究会

揖斐川町派遣社会教育主事 小林 一隆

はじめに

【事例発表参加の目的】

当該活動への御指導、御助言
地域内啓蒙に向けた外部評価
坂内地区に提言して下さる有識者の発掘

【おことわり】

動き出したばかりで実績がない活動
発表者の実態把握不足
当該活動の伴走者としての立場で発表

坂内の概要



岐阜県の西端

98.7%が森林

坂内広瀬地区 2008.2.25



坂内地区データ

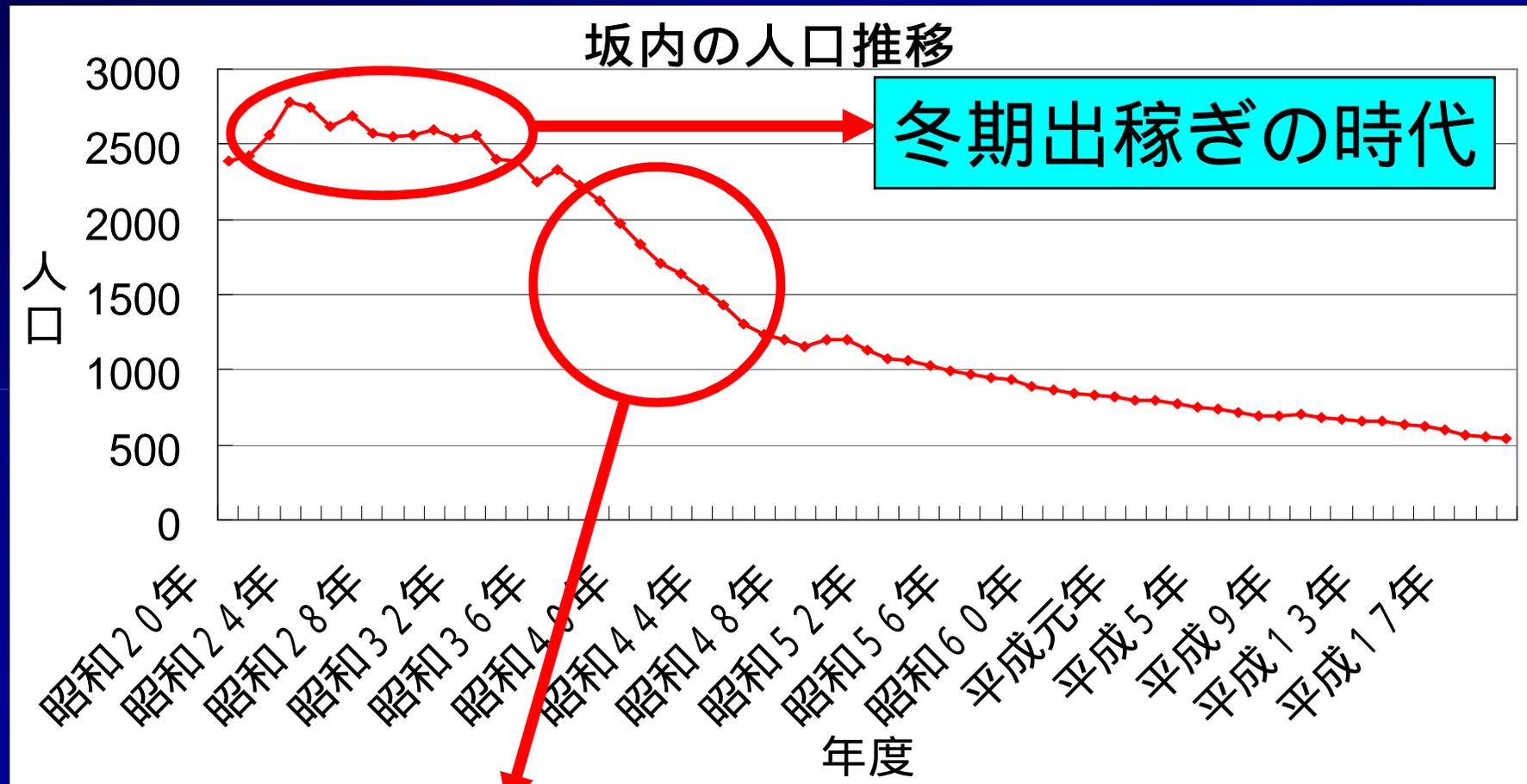
(平成20年2月1日現在)

人口 531人

世帯数 257世帯

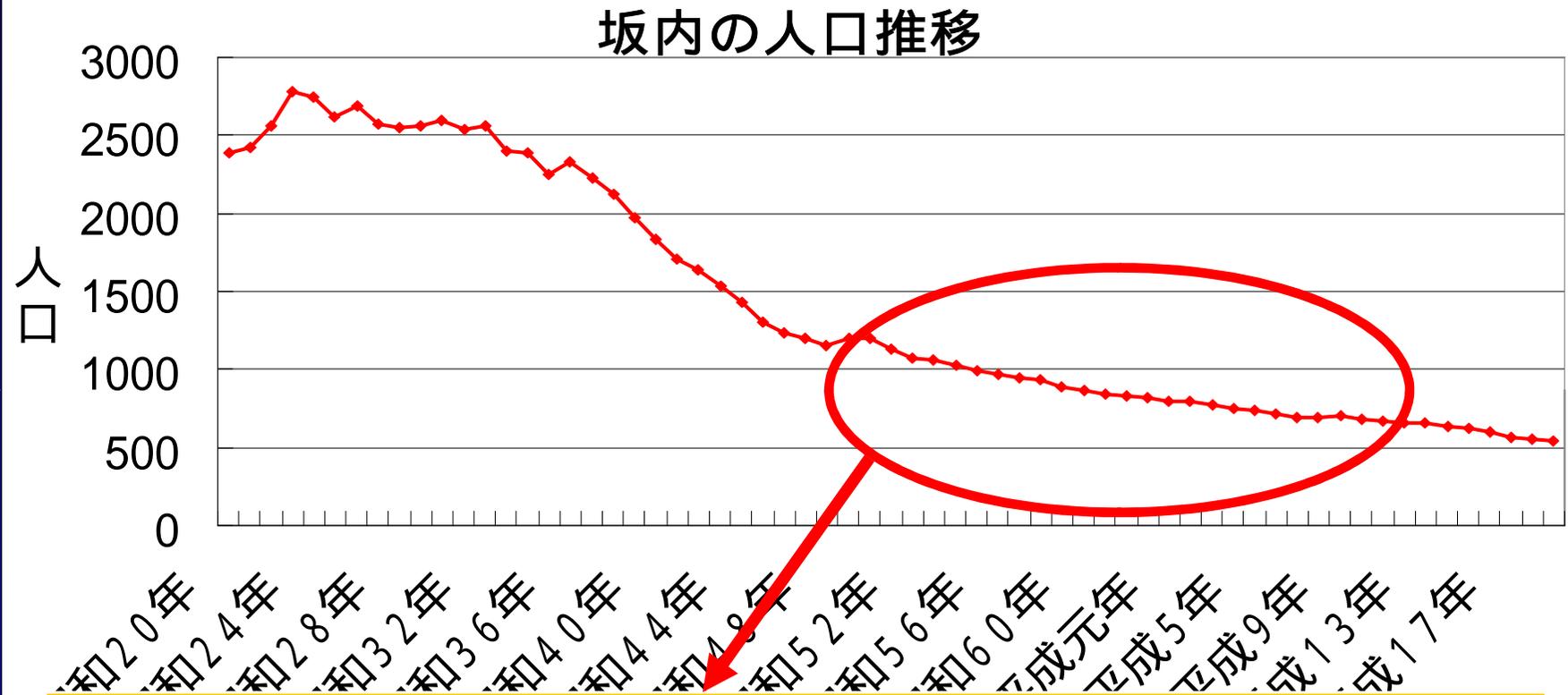
高齢化率 55.7%

坂内地区データ



高度経済成長期における若者の流出

坂内地区データ



住民の「危機感」を鈍らせる
なだらかな「過疎化」

生活実感としての「過疎化」

(10年ほど前に実感したことの例)

ほ場整備したばかりの田が
あっという間に荒れ始める

(以前には考えられないこと…)

地区役員(含 寺や神社の役)の
当番が速く回るようになってきた

(以前は一回やればよかったのに…)

今は掛け持ちも当たり前…)

平成8年度坂内村第三次総合計画

予想：人口720人 → 10年後に530人



目標：人口720人 → 10年後に830人

- ・雇用機会の創出
- ・村営住宅建設整備
- ・居住環境の改善
- ・文化施設の充実
- ・スポーツレクリエーション施設
- ・国道のトンネル化
- ・高齢者との交流や郷土教育

八草トンネル



敦賀まで1時間

関西の玄関口

坂内地区内の
二車線化

国道303号線 整備



国道303号線整備

通勤圏の拡大
旧揖斐川町はもちろん
大野町，池田町，神戸町まで
(整備前は、旧揖斐川町まで1時間以上)

高校生は大垣まで通学が可能
(揖斐駅まで親が送迎)
以前は揖斐高校も下宿生活

集落排水施設



全戸に
水洗トイレ

全戸に
光ケーブル



高速
インターネット

町営住宅
(川上地区)



教員住宅
(坂本地区)



ライスセンター



味が評判の
坂内産コシヒカリ

ダチョウ肉

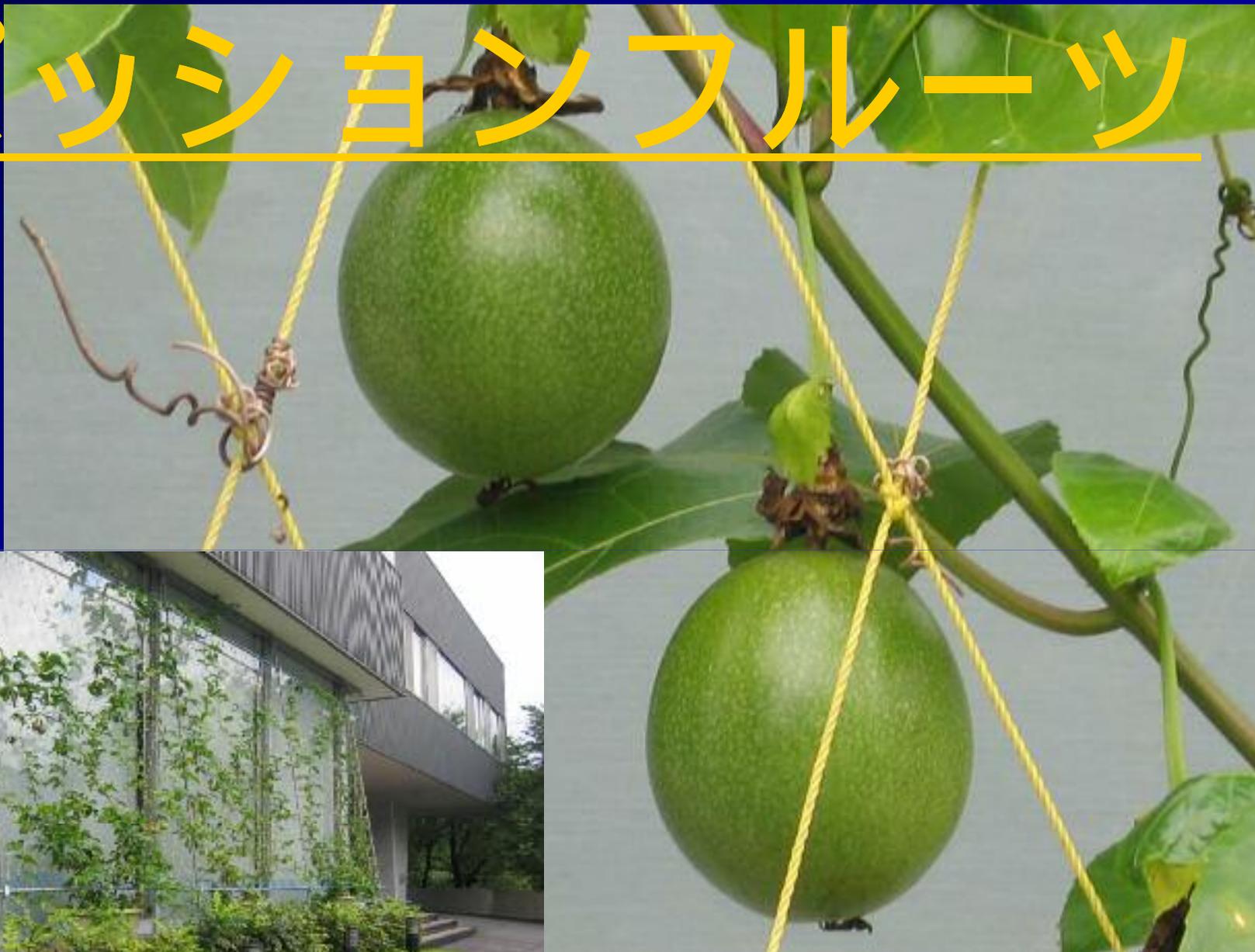


低脂肪
低カロリー
高タンパク

ハンバーグ、コロッケー
サイコロステーキ等、
豊富なメニュー



パッションフルーツ



日よけにも最適

道の駅

夜叉ヶ池の里さかうち



毎月第一日曜日は
朝市を開催（5～11月）

坂内交流センター



坂内交流センター

坂内保育園



図書館も
併設



高齢者住宅 はなもも

安心して
自立生活が可能に

坂内国保診療所



デイサービス
センター

夜叉姫の館



宿泊研修施設
として利用

パッション
フルーツ等、
特産品を栽培



ガラス温室

坂内バイクランド

センターハウス

年2回
4H耐久レースを
住民が主催



平成8年度坂内村第三次総合計画

予想：人口720人 → 10年後に530人



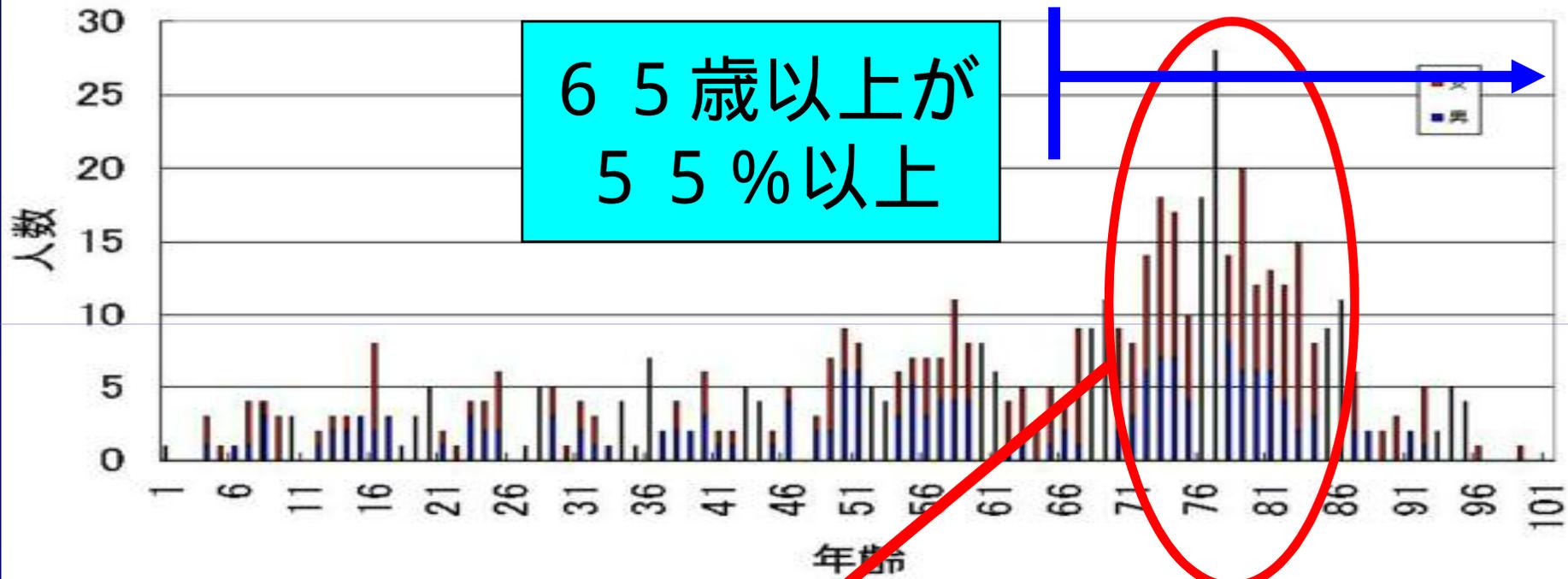
目標：人口720人 → 10年後に830人



現実：人口720人 → 10年後に550人

坂内地区データ

平成19年7月1日 坂内地区人口構成図



70歳から80歳の年齢層だけが
目立つ人口構成図

(苦しいながら、地区行事ができてしまう理由)

地域の伝統行事等



地区の後継者（役員等）不足
諸行事の推進が困難

荒れた田畑・山林



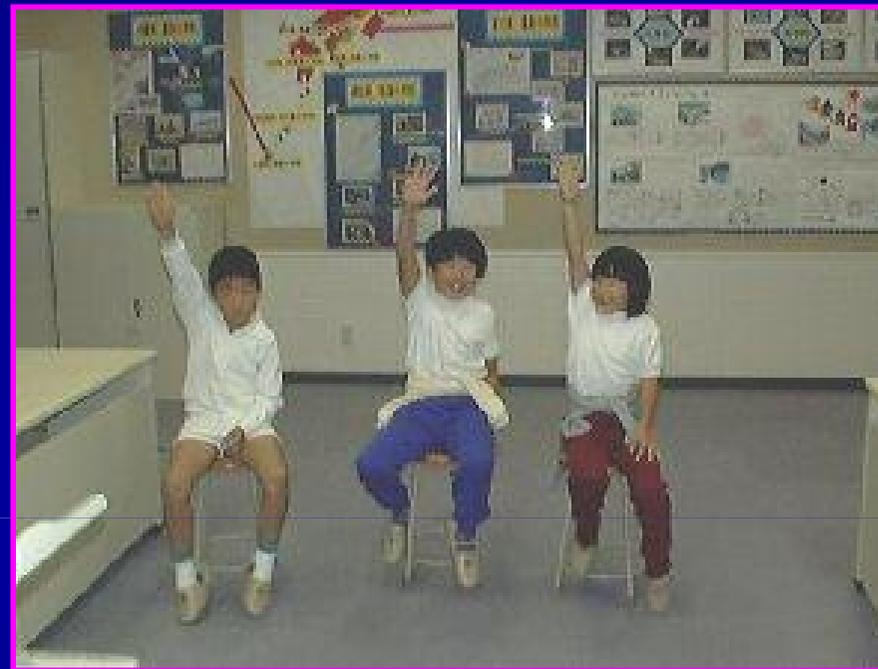
先祖代々受け継がれてきた
田畑・山林だけでなく
新たに整備した田畑も荒れだす現実

高齡化・独居者・助け合い



雪の積る坂内の冬、独居者は
身内よりも近隣の人が頼り

保育園・学校



存続の危機

(平成20年2月現在 小中学校：28名 保育園：6名)

・お隣の藤橋小中学校は既に廃校(平成19年3月)

「坂内再生委員会」発足

【何とかせんといいかん】

坂内住民の切実な思いを、

坂内住民の代弁者となる

「坂内住民自身による活動グループ」発足

坂内の課題を一番理解しているのは

坂内住民自身と坂内出身者

「坂内再生委員会」発足

【世の中の現状】

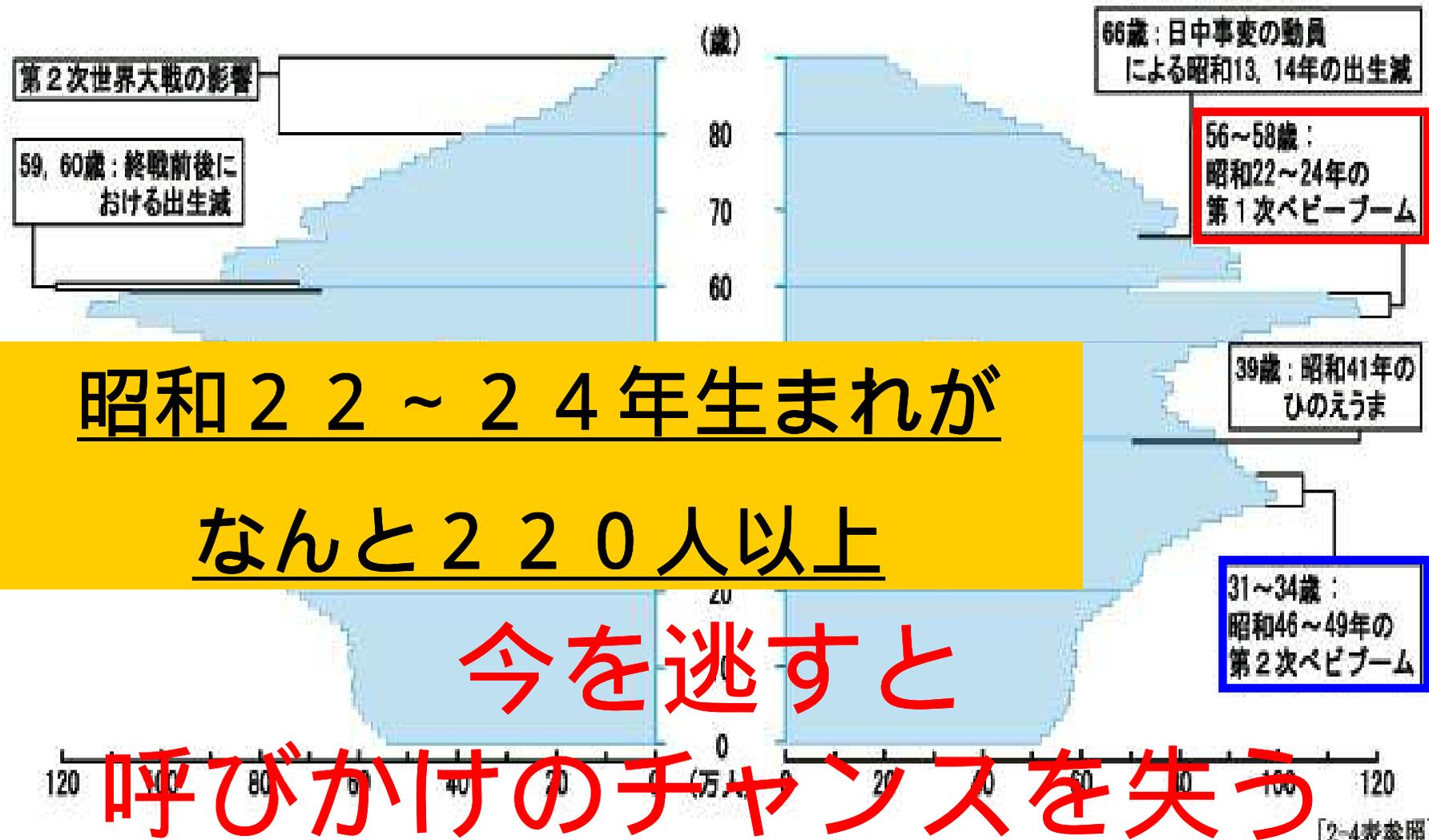
「若者に返ってきてほしいけど、現実的には難しい・・・」

坂内地区には職場がないという現実

働きかける対象の検討

「坂内再生委員会発足」 団塊の世代への呼びかけ

我が国の人口ピラミッド（平成17年10月1日現在）



注) 90歳以上人口（男25万5,772人、女82万1,672人）については、作図の都合上、省略した。

[2-4表参照]

「坂内再生委員会」発足

【坂内出身の

団塊の世代の方々は

坂内の人的財産】

坂内は7地区に分かれているが

各地区に1人でも

そんな人が出てきたら・・・

「坂内再生委員会」 活動経緯

平成19年6月18日

各区長さんの同意を得、
住民自身による活動として発足

各区から1万円
(計7万円)を
寄付していただく

平成19年7月9日

在住団塊の世代・Uターン者・議員への説明会開催
「第一目標:帰省回数を増やす」

平成19年8月27日

坂内住民の思いを代弁する活動内容の推進を合意

- * 「団塊の世代対象者(昭和22年~24年生まれ)」調査
- * 「坂内がこんなに困っています(現状課題)」作成・発送
- * 「坂内からの声(呼びかけ)」作成・発送
- * 「現在の坂内(整ってきた環境PR)」作成・発送
- * 「アンケート(Uターン希望者の発掘)」作成・発送・回収

「坂内再生委員会」 活動経緯

平成19年9月10日

団塊の世代の方々へアンケート等の資料発送
(173名分) 完了

平成19年10月17日

団塊の世代の方々へアンケートの集計完了

平成19年10月18日

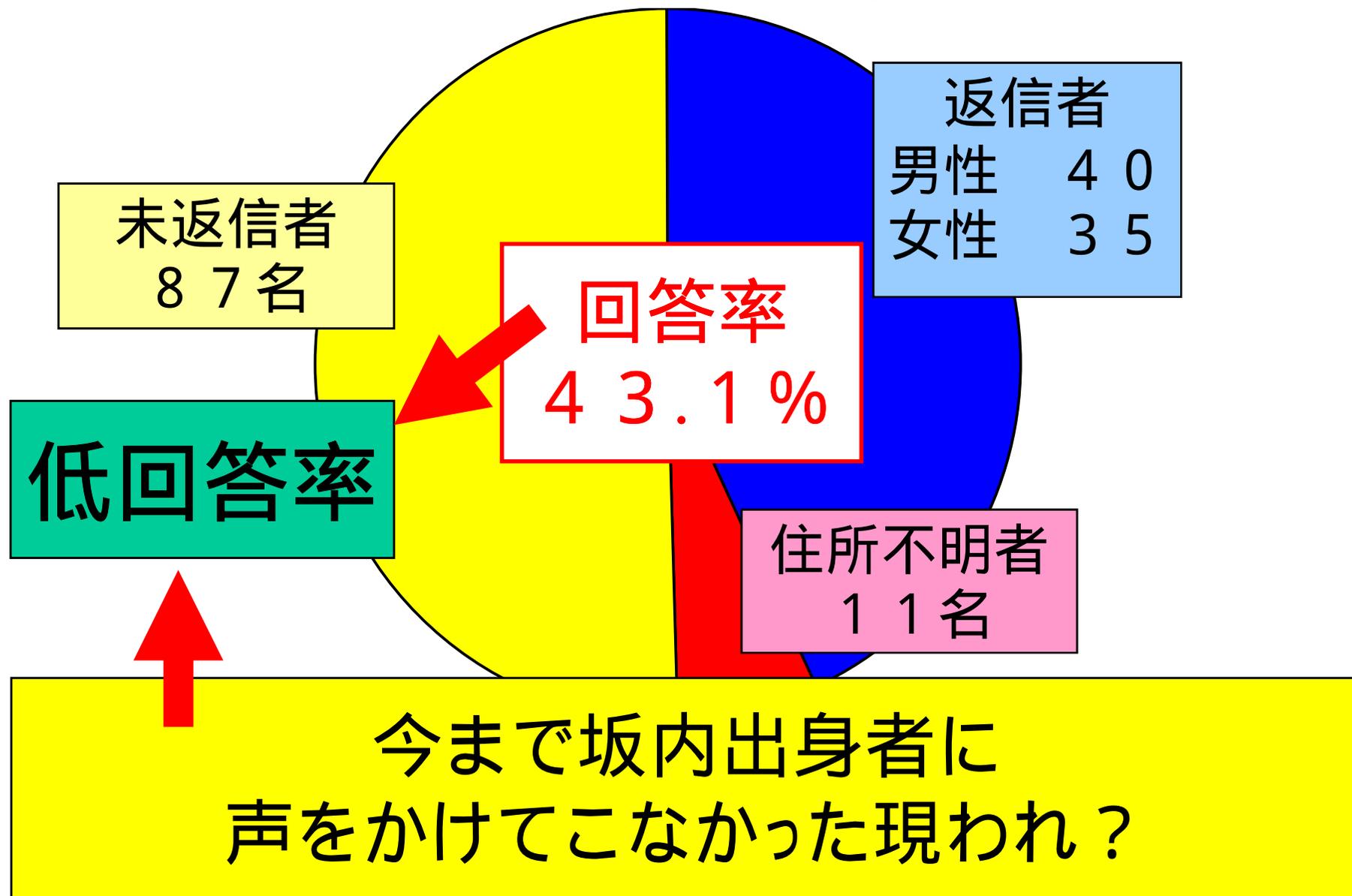
行政推進委員会にて、アンケート結果の報告

平成19年10月29日

アンケート結果を受け、今後の動きを検討

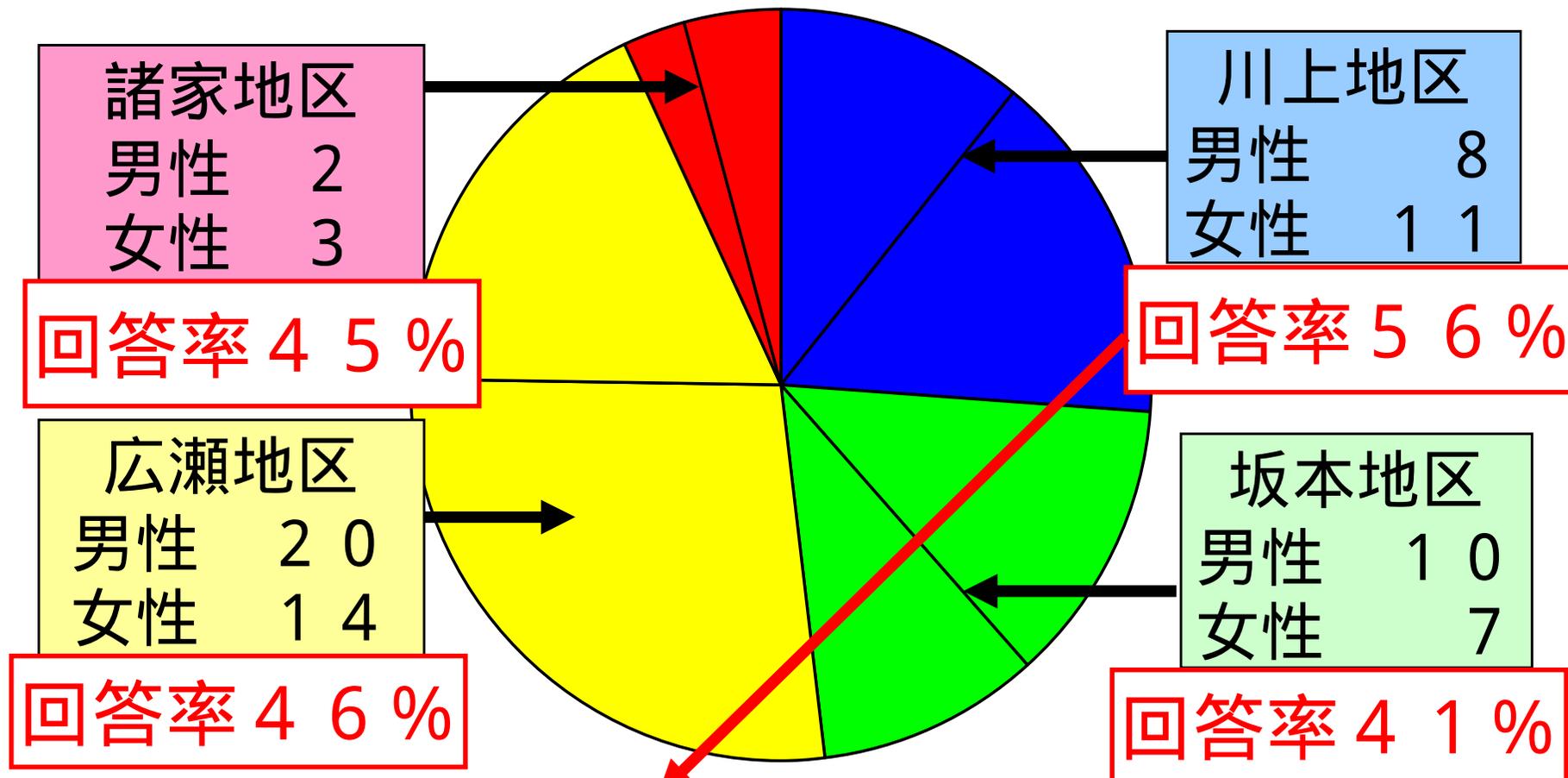
アンケート結果 (11月3日坂内文化祭発表内容)

団塊の世代の方々のアンケート回答数(全体)・坂内出身意識



アンケート結果 (11月3日坂内文化祭発表内容)

団塊の世代の方々のアンケート回答数(地区別)・地区出身意識

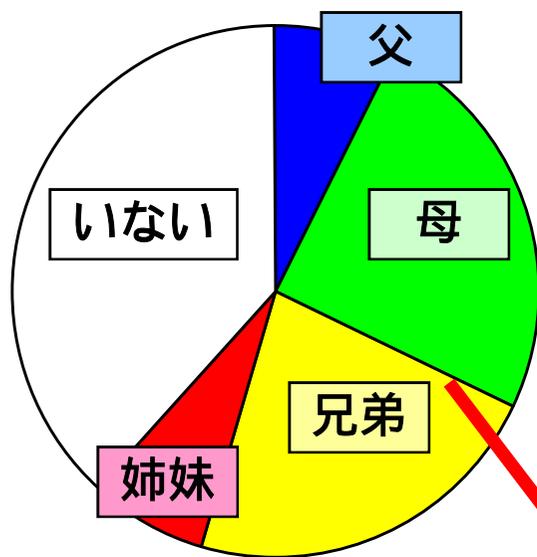


祭りや運動会などに
地区出身者をうまく巻き込んでいるから？

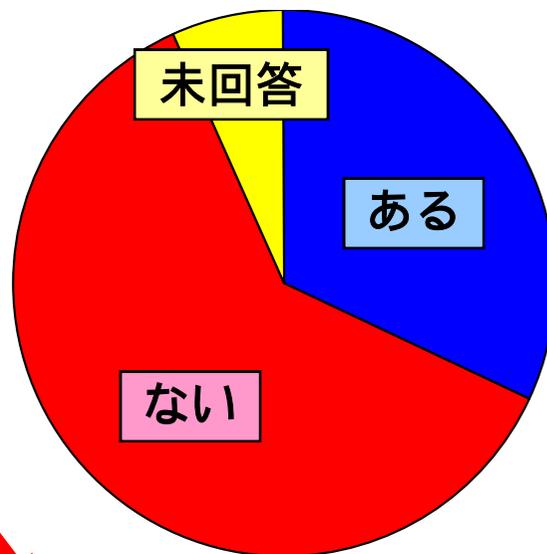
アンケート結果 (11月3日坂内文化祭発表内容)

団塊の世代の方々の坂内との関わり・坂内との接点

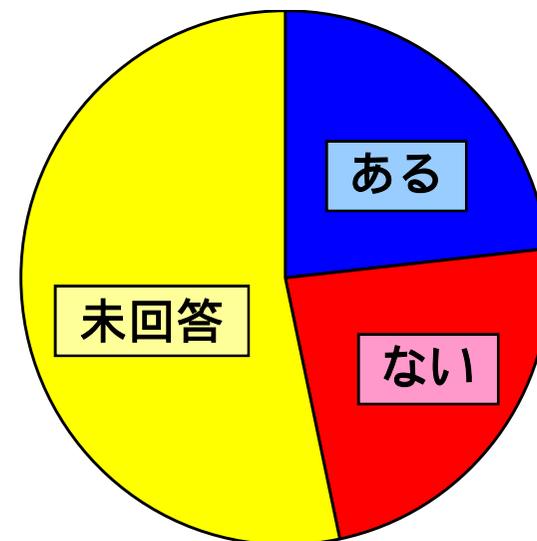
坂内在住の身内



坂内の農地山林



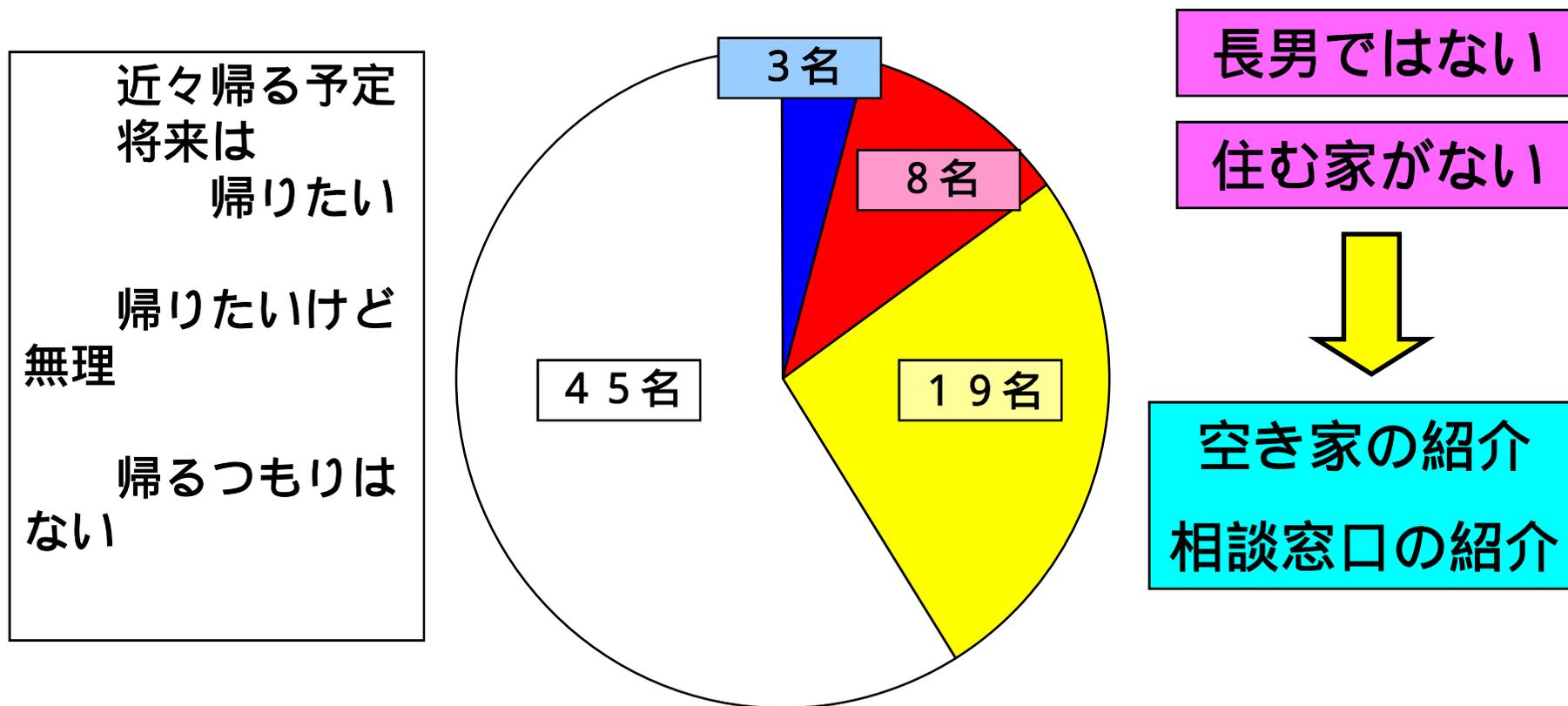
坂内の持ち家



身内との関係は現存
身内を通じて情報提供が重要

アンケート結果 (11月3日坂内文化祭発表内容)

団塊の世代の方々のUターン計画・希望者への対応策



11名がUターンを計画中
「懇親会」の早期実現が必要か？

アンケート結果 (11月3日坂内文化祭発表内容)

団塊の世代の方々のUターン計画・帰りたいけど無理

という人への対応策

長男ではない

住む家がない

付き合いがいや

親・兄弟等が居ない
ため生活基盤
に不安がある

老後の不安

仕事がない

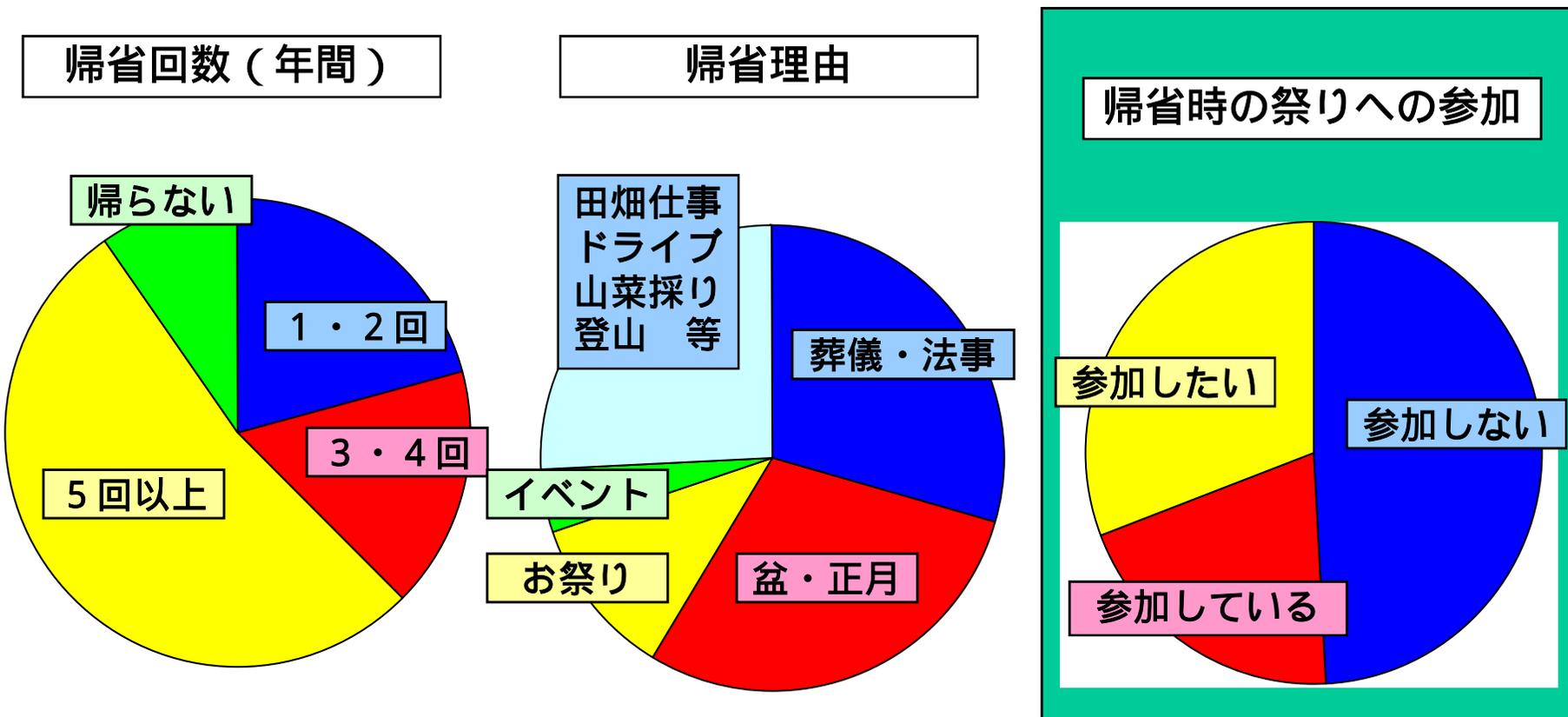
都会で持ち家

坂内での
一定期間宿泊施設

四季を通じて
帰省回数を
増やしたい

アンケート結果 (11月3日坂内文化祭発表内容)

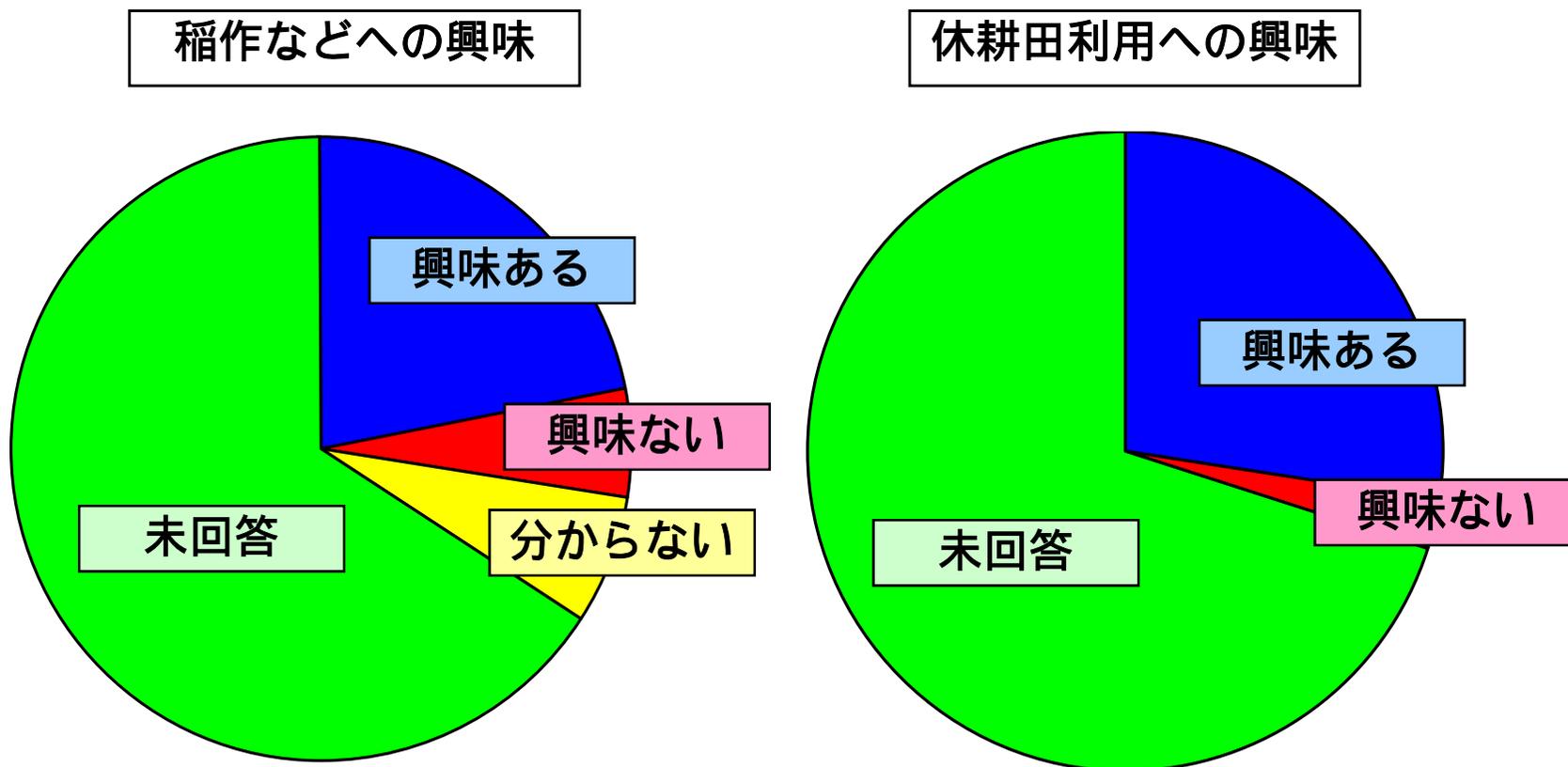
団塊の世代の方々の帰省状況(全体)・・地区行事参加



お祭り等の地区行事について
積極的な情報提供が必要

アンケート結果 (11月3日坂内文化祭発表内容)

団塊の世代の方々の帰省状況(5回以上)・農業への興味



坂内農業の組織・生産・販売等の積極的な情報発信が必要

アンケート結果 (11月3日坂内文化祭発表内容)

団塊の世代の方々からの貴重な意見

坂内での**一定期間宿泊施設があれば**気軽に帰省できると思います。

勉強不足もありますが、都会にいますと坂内のことがよくわかりませんので**年間行事・イベント情報(地区情報も含む)を発行**していただきたいと思っています。

一端都会生活が長くなると、坂内の行事参加に対して自らの参加には非常に消極的にならざるを得ません。**皆さんから声をかけていただければ・・・**

我々のような団塊の世代のように、中学校を卒業したら都会人になって職を求める家庭指導・教育指導ではなく、上位教育(高等学校・大学)を終えたら揖斐川町合併によるメリットを生かして、**揖斐川町広域内での就職に向けた指導及び取り組みを強化**出来ないもののでしょうか。

**坂内住民からの「声かけ・発信」が
両者の掛け橋に**

今後の活動

坂内ツアーと懇親会実施(4月13日)

坂内への依存度を強くお持ちの方に案内を出し、坂内バスツアーを行うことで、坂内の現状を知っていただく

その後、住民との懇親会実施

坂内からの情報発信

定期的に、離村者へ坂内の情報を郵送する

団塊次世代アンケート回収・整理

坂内出身者の本音を整理し今後への参考とする
(S25～28年度生まれ)

この美しい坂内を
いつまでも・・・



ご清聴，ありがとうございました